

こうとう民報

2011年 12月号 86

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します

発行 江東区民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

安心して暮らせる日本を子どもたちに 「さよなら原発・江東」設立!!



大江健三郎さんら7人がよびかけた「さよなら原発」6万人集会。その声を江東区でも広げていこうと11月23日、「さよなら原発・江東」設立の会が開かれました。

設立の会では、三人のパネリストから報告がありました。環境力ウンセラーの権上かおるさんは、東電が福島原発の炉に水を注入するコストを

減らすため岩盤を削り掘り下げたため、津波に対応できる構造になっていないことを指摘。「世界の0・25%の面積しかない日本で、大地震の20%が起きています。これほど原発がなじまない場所はない」と語りました。

農民連の斉藤敏之さんは「なるべく農薬を使わないで、いいものを出荷したいと思って頑張ってきた。それが原発事故で何もかも終わってしまった。自分の土地に帰ることにできない仲間もたくさんいる」と無念さを語りました。

パネラーの保育士さんは「のびのび子どもたちと原っぱで寝転んだり、泥遊びしていたことが、原発事故以後でなくなりました。今まで普通にしていたことが、とつても大事だったんだと実感している」と保育園での子どもたちの生活に触れました。

会場からは「3歳の息子がいます。事故以後は、芝生で寝転んで大丈夫？泥んこ遊びして大丈夫？何をするのに本当は、のびのびと自然なかで遊ばせてあげたいのに」「浄水場で放射線量が検出されたとき知識もなくどうすればいいかわからなかった。いまでも子どもを芝生で遊ばしているのか悩む」と不安な気持ちで話されました。

各パネラーから「放射能対策はしつつも生活の範囲を狭めず、ストレスをためないことが大切。放射能は目に見えないので測定をして数値化していくことが必要。一人ひとりのつながりを広げ、除染や測定のためにかけた費用はすべて東電に賠償させましょう」と運動を呼びかけました。

益者負担」として区民の求める発想自体が間違いです。また人件費について、わが党議員の「地方財政法では人件費は施設使用料に入れないことになっているではないか」と

ました。さらにスポーツ会館や文化センター(2割)、区民館(1割)の使用料を値上げする方針が示されました。区は「受益者負担」「人件費、減価償却費も使用料に組

ました。さらにスポーツ会館や文化センター(2割)、区民館(1割)の使用料を値上げする方針が示されました。区は「受益者負担」「人件費、減価償却費も使用料に組



第4

回区議
会定例
会では

区民農園の利用料を現行5千円から2倍の1万円に値上げする条例案が提案

され、「江東維新」の旗を掲げた新人議員が「毎年の見直しでさらに値上げを」と発言するなど、オール与党の賛成で可決されました。

また、豊洲小、東雲小、四大小、四砂小、六砂小、深川五中、六中、四砂中の用務業務を民間委託すると報告され

相次ぐ区民負担を食い止める

み込んでいく」などの考えを示しましたが、これらの施設は住民福祉の向上という自治体の本来の仕事を具体化するために、税金を使って作ったものです。

しかし議会内では、民主党議員が「フルコストで使用料負担を見直し」と主張するな

ど、値上げの大会唱となっており、これをね返す住民運動を急いで強めることが必要です。

歴史・公民教科書採択問題について、日本共産党のきくち議員は太平洋戦争についての基本認識をたじた上で、教科書採択にあたっては教職員はじめ現場の声を何より尊重するよう求めました。

一方、自民党の新人議員は、第2回定例会に続き、教科書採択について取り上げ、「自民党の期待とかけ離れた結果」としたうえで、教育委員会に対し「これからは歴史認識等

区内各所で放射線量測定

「子どもたちが心配、うちのまわりは大丈夫？」

福島第一原発事故以来、放射能汚染の不安が広がっています。そんななか線量の高い箇所は、区に要請して除染させようと各団体の運動が広がっています。



11月22日、日本共産党の支部と斉藤信行区議は、南砂住宅団地内の公園や児童館前、学校の周辺や緑道など30カ所

11月27日、江東区労連や「さよなら原発・江東」の会など7団体で、猿江公園や北砂5丁目公園など江東区内7カ所40地点で、放射線量を測定し、その内4カ所6地点で基準値を上回る危険箇所が明らかになりました。

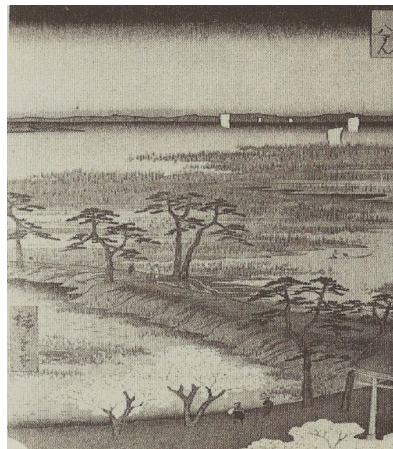
この1年は、特別な年でした。被災地の県議選で示されたように、大震災と原発事故により政党や政治を見る目に変化が起きてきました。現在の科学技術では制御できないのに安全神話を捏造し、アメリカの尻馬にのり原発政策を推進してきたのは紛れもなく自民党政権でした。70年代以降は、25カ所の原発立地を許さなかつた住民の闘いもありました

民主党政権も大震災前まで原発増設を計画し、原発利益共同体の野望は、原発事故収束もできていない今もなお政権を動かしています。国会ではヨルダンなど4カ国への原発輸出のための協定がわずか3時間の審議で決定されました。今年の漢字は、「絆」。震災復興に心を一つにとの願いです。ところがOECDの報告文書「分断されたわれわれ

なぜ不平等が増大し続けるのか」が指摘する日本の所得格差。上位10%が下位10%の平均所得の10倍。を尻目に、消費税増税に不退転の決意をする野田首相の念頭には、アメリカと財界との絆にすぎることしかないのでしょうか。区内に「さよなら原発・江東」の会が発足。子どもを放射能から守ることを運動も広がっています。来年こそ「逆立ち政治」にさよならして新しい政治へ前進するために絆を太くして行きたいものです。

「砂村氏による新田開発」

歌川広重「砂むら元八まん」
(名所江戸百景)



概説
江東の歴史
(5)

深川村の開発に続いて、1624年頃から砂村新左衛門が一族を率いて宝六島を中心に、海岸の洲や荒野を開拓。35年後には436石の新田(南砂のほぼ全域)を完成して砂村新田と名付けました。新左衛門はこの土地を弟の新四郎に与え、その子孫が代々庄屋をつとめました。

幕府はこの砂村を直轄領とするために、関東郡代伊奈忠克を遣わし、開拓地の中央に幅19メートルの水路(境川)を設け、13の橋を架けました。

村の鎮守は、南の海際に造られた八幡社(富岡八幡宮)。富岡八幡の神像の一つがおいてあったことから元八幡とよばれています。この辺には桜並木と新左衛門が植えた3万本の松並木があり、広重の「江戸百景」に描かれています。砂村の西端には疋氣稲荷もありました。

今の砂町の地には、八郎右衛門新田(神明社)をはじめ、開発者の名をとったような新田がひらかれていきました。八右衛門(志演神社*注)、久左衛門・浜兵衛(浜兵衛稲荷)、萩(妙法稲荷)、又兵衛(陶首稲荷)、大郎兵衛(生田稲荷)、大塚(神明社)、中田(中田稲荷)、永代。()内は鎮守。

このほかに、小名木川沿いに亀高村がありました。その北側の亀戸村が開発した亀戸新田と南側の高橋新田が、名主治郎兵衛の支配であったために一つの村として亀高村ということになりました。

8代将軍吉宗が鷹狩りにおとずれた時、この名主治郎兵衛宅の四季農耕図の屏風に感心し、銀二枚を与えたといひます。

(*注: 犬公方で有名な5代将軍綱吉の「民の志を演ぶるところ殊勝なり」が志演神社の名のおこりといひます)

~行事日程~

1月4日(水)「消費税増税反対署名宣伝」

11時30分~富岡八幡宮前 消費税をなくす会

分科会「福島からナマの声」の公務員宿舎に避難している方々からお話があり、参加者は時には涙し、政府や東京電力の対応に怒り、緊急カンパも寄せられました。また、新企画の太極拳コーナーや作品展示、健康相談もあり、アンケートには「色々勉強になった」「たいへん良かった」などの声が多く寄せられる集会となりました。

江東区

区民のくらし、福祉、教育を守るため

行財政改革に反対しよう!

江東区が策定した行革項目には、区立保育所の民営化、児童館・学童クラブ・福祉園の管理運営の見直しなど区政のアウトソーシング、職員の削減、使用料・保育料・健診の利用者一部負担の導入がある。

12月15日、江東区職労は文化センター展示室で「江東区行政改革計画反対」決起集会を開催しました。



げられています。

石川区職労書記長は「計画の目的は徹底した歳出削減と歳入確保にある。学校給食調理や図書館窓口等委託の検証もなく、いま実行しなければ破たんした夕張のようになる」と区が言っているが、江東区は全国市区町村で5番目の健全財政。生活保護世帯や国保料滞納世帯が急増する現状で区民負担をさらに強いるのは区民の納得と合意は得られない」と述べました。

保育・医療・業者など各分野から参加した団体からは、区の改革計画への疑問や問題点が出されました。最後に「計画の問題点を広範な区民に明らかにし、広く区民・諸団体と協力・共同し住民のくらし、福祉、教育を守るために計画に反対してたたかいてあげよう」との集会決議を参加者の全員の拍手で確認し、運動のスタートとしました。

討論では、食事会やカラオケなど多彩な班活動が紹介されました。辰巳都営住宅の改修では「部屋の面積が小さくなるなど問題点が明らかになってきた。引き続き改善を求めていきたい」との報告がありました。また「被災地の農作物を、守る会で買って販売す



来賓あいさつに立つあぜ上都議

るなど応援できないか」などの意見もだされました。来賓あいさつにたつたあぜ上三和子都議は、反対の声が大いオリソニック招致決議が趣旨説明も討論もないまま採決が強行されたことをあげ「石原都政がオリソニックでやりたいのは結局、羽田、築地間をつなぐ地下トンネルの建設など大型開発。しかし今必要なのは、被災地への支援や生活を守ることです。力を合わせて運動を広げていきましょう」と呼びかけました。

佐藤巖会長は、区内の民主団体と共同で「対区予算要求」や「税金申告」「都営住宅入居相談・収入報告」等の相談

午前の部は、感動の名作「幸せの黄色いハンカチ」の上映が行われ、「憲法の息づ



分科会「福島からナマの声を聞く」

く平和で福祉が充実する社会にするため知恵と力を合わせていきましょう」との集会アピールを全員の拍手で採択しました。

午後からは「話してみよう、きいてみよう」の分科会が開催されました。「福島からナマの声を聞く」「大空襲訴訟から平和を考える」「地震の時、あわてないために」「高齢者がくらしやすいまちづくりを」の各分科会では報告者からの話しに真剣に耳を傾け、熱心な話し合いが行われました。

第39回 江東・生活と健康を守る会定期大会

みんなで支え励まし合って

強く大きな守る会をつくらう!

11月27日、江東生活と健康を守る会は西大島総合区民センターにて定期大会を開催しました。

活動に取り組んできたことを報告し、「3月11日の震災以降、自己責任論から、人と人との絆が改めて見直されている。ひとりではみんなのためにみんなはひとりのためにをうろく

第23回江東区高齢者集会 平和で輝く高齢社会をめざして!

11月23日、第23回江東区高齢者集会が総合区民センターで開催され246名が参加しました。